

天文学とプラネタリウム

第93回



今月のお題

丸の内で宇宙を語ろう



2012年もよろしくおねがいします！

東京・新有楽町ビルで天プラが実施している「まるのうち宇宙塾」。仕事帰りに都心で宇宙に触れる機会として人気です。



www.tenpla.net

高梨直紘 (東京大学)
平松正顕 (国立天文台ALMA推進室)

後半がむしろ本番。

天プラでは、日常から手が届く範囲に天文学の面白さを持ち込もうとさまざまな企画を立ててきました。ダイレクトに生活の場に宇宙を持ち込むグッズとして開発したアストロミカル・トイレトペーパーや宇宙の大規模構造扇子、あるいは託児サービスをつけることでイベント参加のハードルを下げる天文教室などです。さらに最近では、オフィス街や宅地での天文イベントの企画も続々と打ち出しています。天プラが森ビル株式会社と共同で開催している六本木ヒルズ屋上での天体観望会「六本木天文クラブ」などは、その先駆けです。

そんな中で、天文学研究の現場にいる研究者と最新の天文学の話題を楽しむ機会として今年度から開催しているのが、「まるのうち宇宙塾」です。東京・新有楽町ビルにある、三菱地所株式会社が運営する「Nature Info Plaza 丸の内さえずり館」で月2回のペースで開催していますが、たつぷりと対話の時間を取るのが特徴です。講義30分・質疑60分の設定で、ファシリテータや来場者の皆さんと質問をやり取りする

12/13に開催した回では、ファシリテータ：高梨+講師：平松の組み合わせで、いよいよ2011年秋から科学観測を開始したアルマ望遠鏡についての話題を取り上げました。来場者は40名ほどで、常連さんと初めての方が程よく混じった回になりました。質問の時間もかなり盛り上がり、基礎的な質問からかなり技術的に専門的な質問、さらにはアルマ望遠鏡が国際協力プロジェクトということでプロジェクト運営についての質問まで、多岐にわたりました。よく尋ねられる質問もあれば珍しい質問もあり、説明する側としては特に説明が難しい質問に何とか工夫して答えて、質問者の方にふむふむとうなづいてもらえると嬉しいものです。いろいろなところで講演をする度に、こうした質問対応を積み重ねることで、説明の仕方をそのつど工夫し、より伝わりやすい方法を模索することができることを実感します。講演者も得るものがあるイベントというのは、ありがたいものです。

まるのうち宇宙塾では、大学で教育学を学ぶ学生さんが参加者にアンケートを取ったインタビューしたりして、このような企画が参加者



まるのうち宇宙塾でのひとこま。

にとつてどのような作用をもたらすのか、という調査も行われています。「楽しい」「ためになる」そういった感想はありがたいことによいいただきますが、より客観的にその価値を評価できればさらなる展開も見込めるというもの。2012年も、天プラは攻め続けます。